

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 2月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1172400556
法人名	有限会社けいあい商会
事業所名	グループホームけいあい
所在地	350-0463 埼玉県毛呂山町前久保南4-16-1 (電話) 049-276-6751

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年1月31日

【情報提供票より】(平成19年12月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 1人, 非常勤 9人, 常勤換算 8.6 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	500 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 0 円
または1日当たり 1,500円			

### (4) 利用者の概要(12月28日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.5 歳	最低	69 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	長瀬クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

外観は住宅街の中にさりげなく溶けこんでおり、1ユニットの家庭的な環境を有したホームである。開設以来、職員の努力により、地域住民との交流もより一層深まりつつある。職員と利用者との会話からは、共に過ごし、当たり前な生活を支え合う関係づくりが実践されている様子が伺える。十分なアセスメント、利用者本位の個別の介護計画に基づき、家族の理解と協力を得ながら、その人らしさを大切にケアが提供され、利用者は穏やかな表情で過ごされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果については、職員がいつでも閲覧でき、情報は共有されているが、改善課題について職員全員で改善を図るまでには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については職員への聞きとりを参考にするなどし、主に管理者が取りまとめている。評価のねらいや意義、活用方法について話し合いながら理解を図るなど、全職員での取り組みには至っていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>定期的に会議が開催されており、自治会区長と民生委員、家族代表に加え、包括支援センターや町担当課とも今後さらに連携を深める取り組みについて前向きに検討している。独居の方の入居受け入れについて、行政担当者とともに相談援助に当たっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月1回郵送により利用者の近況などを写真を添えて報告している。また職員は家族の来訪時の声掛けや、必要に応じて利用者の様子を電話などで、家族に連絡している。年3回の家族会や催事、運営推進会議への出席、家族の来訪のりなどあらゆる機会を通して、職員は家族が意見や希望を表出しやすい雰囲気作りに努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地域行事にも参加している。隣接の公園には日常的に散歩に出かけ、近隣住民との交流もある。また現在ホーム便りを地域の方に配布できないかを検討している。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を生かし、着実に地域との関係を深めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の理念は職員全体に共有されており、日々のケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域行事にも参加している。隣接の公園には日常的に散歩に出かけ、近隣住民との交流もある。また、現在ホーム便りを地域の方に配布できないかを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員への聞きとりを参考にして、主に管理者が取りまとめている。評価のねらいや意義、活用方法について職員全員で話し合いながら理解を図るなど、全職員での取り組みには至っていない。また、外部評価の結果を受けて、全職員で改善に向けて取り組むには至っていない。		運営者、管理者が中心となり評価を計画的・継続的に、かつ一連の課程を職員全員で取り組むことが求められる。また、外部評価の結果について、全職員で話し合いながら、見出された課題について改善を図り、質の確保と向上にむけた更なる取り組みに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議が開催されている。なお、自治会区長と民生委員、家族代表の参加に加え、今後は包括支援センターの参加を視野に入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の開催を契機に、今後さらに連携を深める取り組みについて前向きに検討している。独居の方の入居受け入れについて、市担当者とともに相談援助にも当たっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、郵送により、利用者の近況等を写真を添えて報告している。また、職員は家族の来訪時に報告したり、必要に応じて利用者の様子を電話などで家族に連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の家族会や催事、運営推進会議への出席、家族の来訪時などあらゆる機会を通して、職員は家族が意見や希望を表出しやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は定着しており、現在は異動は殆どない。利用者との馴染みの関係にある職員が継続的に支援できている。また、職員が代わる場合には、十分な引継ぎと配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は、個々の必要に応じた研修に参加する機会が設けられている。職員育成のための年間計画の作成には至っていない。		全職員が一律ではなく、各職員が自ら立場・経験・地域密着型サービスについての理解や実践の習熟度等に応じて、段階的に力をつけていけるような事業所としての計画を作成することを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議(行政担当課、居宅介護事業所、地域包括支援センター職員等)への参加や、グループホーム連絡協議会に加入して、学習会にも出席しており、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の見学や、体験入居により、納得した上で入居できるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の力量に応じた役割を持ってもらうなど、職員は利用者とともに暮らす姿勢を大切にしている。また、年長の利用者の体験から学ぶ場面をもうけ、職員と利用者が共に支え合う関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>十分なアセスメントや随時のケアカンファレンスを行うなど、利用者それぞれの思いの把握や希望に沿った支援がなされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月1回のカンファレンスに加え、家族・職員間で情報交換等を行うことにより、一人ひとりに合わせた計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の担当者が中心となり、期間毎に計画の見直しを行うとともに、状態の変化があればその都度、介護計画の検討、見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があればショートステイの受け入れを行っている。また、家族による受診の付き添いが困難な場合、職員が支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿った医師への受診は、家族の協力を得ながら、職員が受診の付き添いや通院介助の支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の段階で家族に了解を得ているが、医療面でのバックアップ体制がなく、現状では終末期の対応は困難である。		入居者の看取りについて職員は前向きに考えており、今後の課題としてターミナルケアの方針をあらためて検討するなどしながら、医療面の支援体制の構築についても検討されることを期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけ等、個人のプライバシーに配慮した対応がなされている。個人記録は個別にファイルされ、職員以外の目に触れないようにしているなど、きちんと保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせた柔軟な対応により、その人らしさを大切に支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する作業については、利用者の個々の力を活かしながら、職員と一緒に進めている。食材は一括で届けられたものを利用しているが、決められた献立のままではなく、利用者の好み等に応じて、メニューを変えるなど、食事を楽しむ工夫がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を原則にしているが、個々の希望に沿った支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや囲碁、将棋を楽しまれる方など、個々の力量に応じた支援をしている。また利用者自身でできそうな仕事は利用者に任せ、感謝の言葉を伝えている場面も見受けられた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物など可能な限り、利用者の希望に沿った支援をしている。リビングの窓を開けると、物干し場から隣接の公園へと敷地が広がっており、それぞれ自由に外気浴などされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リビングの居室の窓は開錠され出入りは可能であり、安全面への配慮から玄関のみ施錠となっている。利用者に出先の希望があれば、対応するなど、自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力による防災訓練を実施している。職員の緊急時連絡網も作られており、地域の防災協会との連携策を検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・カロリーに配慮された食材を利用し献立、調理されている。また食事・水分摂取量は確認のうえきちんと記録されている。利用者の状態に応じた食事形態についても配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	背面型の流し台を備えたりリビングは、広すぎない家庭的な空間となっている。事務室の他にテレビが置かれた開き部屋があり、利用者はここでも自由に過ごされている。週に1回程度のボランティアによる音楽療法などにも利用されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものが持ちこまれ、利用者それぞれの個性が感じられる居室となっている。		